

平成14年度第2回熊本県環境影響評価審査会 議事概要

日時：平成14年10月1日（火）午前10時～午後0時10分

場所：水前寺共済会館2階「鳳凰」

出席者

熊本県環境影響評価審査会：今江会長、内山委員、江端委員、木田委員、甲元委員、古賀委員、鈴木委員、長谷委員、林委員、吉田委員

事務局：熊本県環境生活部環境政策課職員（松山、村山、真田、坂本、小澤、藤山）

事業者：益城町地域開発課職員（堀田課長、中桐係長、藤田主事）、コンサルタント会社職員

議題

- 1 熊本県環境影響評価審査会の運営について
- 2 益城台地土地区画整理事業に関する環境影響評価準備書について（準備書等の内容説明）

議事概要

- 1 熊本県環境影響評価審査会の運営について
委員改選後第1回目の審査会で、委嘱状の交付及び会長の選任等が行われた。
 - ・会長に今江委員が互選され、会長職務代理者として藤木委員が指名された。
 - ・会議の議長は、これまでどおり、会長がつとめることに決定された。
- 2 益城台地土地区画整理事業に関する環境影響評価準備書について
今回事業のアセスの流れについて
審査会事務局（環境政策課）から、これまでの手続きの経過及び今後の手続きの流れについて説明が行われた。
事業及び環境影響評価準備書の説明
益城町地域開発課から事業及び環境影響評価準備書に関する説明が行われた。
主な質疑等
 - ・住宅地を計画するのであるから、九州自動車道による騒音の現状等を押さえておくことが必要ではないか。
 - ・文化財については、予備調査をまんべんなくする必要があるのではないか。
 - ・樹林帯の消滅に関して、移植してシンボルツリーにするからといって景観の保全目標が達成されているとは言えないのではないか。まず考えないとならないことは、樹林帯をできるだけ残すことと、全体として緑化をどのように進めるかの計画である。
 - ・事業地区は地下水涵養域として重要なところである。涵養量の変化については、家庭用浸透マスによるものも含めて考える必要があるのではないか。
 - ・ミズアオイが調査結果に出てないが、岸辺の調査がなされていないところがあるのではないか。
 - ・全体として、事業者の思い、希望による記載が見受けられ、現実問題として実施することとのギャップがあるようだ。
- 3 その他
特になし。

配布資料

- 1 益城台地土地区画整理事業環境影響評価準備書及び準備書資料編
- 2 今回アセス案件に係る意見照会書
- 3 益城台地土地区画整理事業に関する環境影響評価手続き等について（次第裏面）